

B Pファシリテーター体験記 静岡県磐田市

行政ができる子育て支援

～B Pプログラム実施までの経緯と実践報告～

静岡県磐田市役所 村川 実加

「閉じこもりになる」

「私も主人も実家が県外だから、ここには知り合いも友だちもいません。閉じこもりになると思います」

生後1か月半の第1子の母が話してくれたこの言葉が、とても衝撃的でした。今から5年前のできごとです。私たち行政保健師には異動がつきもので、成人保健係から母子保健係に異動をして3か月後のことでした。

磐田市の人口は約17万人、1年間の出生数は約1500人です。母子保健担当の保健師は地区担当制で、ほぼ100%、生後2か月までに赤ちゃんの家庭訪問に伺っています。赤ちゃん誕生後初めて出会うこの場は、母と保健師が信頼関係を結び、困ったらいつでも頼ってもらえる関係づくりのスタートとしてとても大切な時間である、と保健師皆が共通認識をしています。私自身は、受け持ち地区で生まれる赤ちゃん約150件に赤ちゃん訪問でお伺いしています。

赤ちゃん訪問で母子と触れ合う中で、同じアパートの同じ階で赤ちゃんが生まれているのにお互いに知らないでいる母がいることに驚いたり、無言で赤ちゃんとの時間を過ごしている母がいると思えば、インターネットから情報をいっぱい集めすぎて同じようにいかないからと心配をしすぎる母、昼間も夜も泣くからイライラすると赤ちゃんと一緒に泣く母。多種多様な母の姿に、「人間関係が希薄な中、家にこもって悶々としてはいけけない、何とか母同士を結びつけてあげないといけけない」と焦りました。「とにかく特別な支度などしなくてもいいから、気軽に赤ちゃんとの最初の一步を踏み出して」という思いから、自宅から近い地区の公民館で、出張型赤ちゃん相談を始めました。異動から半年後、「閉じこもりになる」と伝えてくれた母との出会いから3か月後のことです。

できるだけ早い時期に伝えたい

同じ不安を持ち共有できる相手を求めている母達が集える場が、生活により近い公民館でセッティングされたため需要が高く、毎月1回の場に、毎回30～40組の親子が参加します。年間150件の出生のうち、半分以上の親子が参加をしています。この赤ちゃん相談には、地域の民生委員・児童委員さんが積極的に参加をしてくださり、初めて参加をした母が不安にならないように輪に誘い込んでくれたり、住所や月齢を聞いて近そうな母同士を結びつけてくれたり、活躍をしてくれています。



地域で子育て支援をしていく環境が少しずつ整いつつあります。

また、行政では法律に基づき、幼児健診(1歳6か月児健診・3歳児健診)を行っています。この場では、母子関係がとても良好な親子が多数いる反面、泣く子をスマホで黙らせる母・言うことを聞かない子を暴言で引き寄せる母・無言で身長体重計に乗せる母・子を放っておいて他母との会話に夢中になる母・遅寝遅起きの生活リズムが定着している子、などが増えていると感じています。

これら多数の幼児やその母、赤ちゃんを出産したばかりの新米母に接する中で、「できるだけ早く、母の気持ちより真っ白なときに、子育ての大切なエッセンスを具体的に伝えることが必要」とスタッフ皆が思うようになり、保健師である上司ともよく話をしたものです。そんな時、B Pプログラムファシリテーター養成講座があり、上司と飛びつくように参加させていただきました。

行政の強みを生かして計画

養成講座終了後、ふたつの目的でB Pプログラムを実践しました。目的の1つ目はファシリテーターの認定を受けるため、2つ目はモデル的に開催し継続開催に結びつけるためです。継続開催するためには、地域組織(民生委員会・地区社協)のご協力が必須であると判断したため、どう形を作っていくかの模索と、参加した母達の様子や感想から、母達の需要を確認し必要性を確かなものにするためです。

市内で生まれた子・産んだ母全数を把握し、いつでもアプローチできるのが行政の強みのひとつです。

進め方は以下の通りです。

- ① モデル開催地区の決定→私の担当地区
- ② 開催時期の決定→H26. 1月毎週月曜日午後
- ③ 対象児の決定→H25. 9月1日～10月31日生

対症療法から予防と支援策へ

- ④ 地域組織への依頼→民生委員会長・地区社協会長へBPプログラム必要性のご理解をいただくための説明と金銭支援の依頼（金銭支援はテキストの事前購入です）（将来的に継続開催が実現した際には、ファシリテーター人件費支援もご相談していきたいと考えています）
- ⑤ 会場確保→地区公会堂（民生委員会長からのすすめ）
- ⑥ 対象母へのアプローチ→年間150件の出生中約半数が第1子であるため、2か月間に生まれた第1子が12名、全てに連絡をし11名の参加確認を得る。11名中1名が若年母で来所の手段が得られず10名参加に決定。（この時点でファシリテーターは私一人に決定。アシスタントは一緒に養成講座を受講した上司が担当）
- ⑦ 必要物品の準備と会場セッティングの確認
- ⑧ ファシリテーターとしての心構えと進め方の復習
いよいよ実践です。

4回とも欠席者なく

初日は、受付開始45分前に会場に到着。トラブル無くセッティング完了。和室のため、赤ちゃん一人につき座布団をひとつ用意し、輪にしておく。DVDを作動させファシリテーターとアシスタントの役割の確認。ドキドキしながら親子の来所を待つこと15分。

緊張した面持ちで、一組目の親子が来所。寒い日であったが、来てくれたことに感謝。この日は来所順に座りたい場所へ移動。受付を済ませ全員そろっても初めてのため会話が弾まず。ファシリテーターも緊張しているため、何となく進めながらこちなさを感じる。

内容が進むにつれ、母達もほぐれ、日頃の心配事や聞きたいことを付箋に書くときには、それぞれが考えながら素直な思いを書いてくれたと思う。終了後の交流時間になると、初回なのに話が弾み、終了時間でファシリテーターが区切りをつけるほどだった。

以降、2回・3回・4回とも欠席者なく、進むに従って、感想では初めて会ったのにずっと前からの知り合いだったような気がする、などが聞かれるようになりました。

実践して感じたこと5つ

4回のプログラムを終了して感じたことが5つあります。

- ① プログラムに沿ってすすめることが、職業柄自分のカラーが出そうで心配だったが、養成講座で「プログラムから逸れない事」を繰り返し伝えられたため、プログラムに準じて進めた結果、期待する効果が得られる体験をすることができた。
- ② 母同士が話をし解決に結びつくことが多々

あり、たとえ1か月でも早く生まれていると経験談を伝え、1か月遅い子は早い子を見て1か月後の予測を立てる。ピアカウンセリングが成立する場だったと実感できた。

- ③ 母達のタイプが様々だったが、毎回席を変えることで自然と交流ができていた。4回を短く感じた母もいたが、継続参加のためには丁度良く計算された回数設定だと感じた。
- ④ 「ファシリテーターは黒子に徹する」が、なかなか難しく、邪魔にならないように見守り、気と目をかけることに「自分はどうかろう？」とずっと悩み続けた。
- ⑤ 最後のアンケートでは満足度が高く、上手に伝わるだろうか？と不安だったピエロバランスが意外と印象に残っていたなど、プログラムの効果だと感じた。
ということです。

行政にしかできないことを

現在、幼児健診で保護者を見ても、幼稚園保育園児の保護者を見ても、わが子とどう向き合いどう話しかければいいのかわからない保護者がいる中、泣き声通告や、ネグレクト通告などの虐待の芽が少しでも少なくなることが望まれています。どうしたらいいのかわからないから保護者も苦しいし、子も苦しい。そんな悪循環を少しでも減らしていける施策を展開していけるのは行政でしかできないことだと思っています。

社会情勢がめまぐるしく変わり、人と話さなくてもスマホなどがあれば寂しくない社会。人混みで写真を撮ると、ワンショットに写るほとんど全ての人うつつむき画面を眺めている光景。

画面を見るなら、わが子の目を見て欲しい。わが子の目を見て「○○ちゃ～ん、抱っこするよお～」という抱っこの練習はかけがえのないものだと思いますし、その練習から「家に帰ってパパもそうやって抱っこをするようになりました」という報告に、素直な母の姿を感じ、BPプログラムで実践したことが広がりを見せるすばらしいつながりを母達自身が感じていることがまたこのプログラムのすばらしさだと思います。プログラム終了後4か月がたちましたが、母同士のネットワークが続き、子育て支援センターや公民館での赤ちゃん相談に、それぞれが元気な姿を見せてくれています。赤ちゃんの心には、心の安定根が根づき、起き上がりこぼしのように、転んでも転んでもしなやかに起き上がることができる子ども達に育っていくことだろうと期待しています。

対症療法になりがちな虐待対応や養育環境が原因の発達障害支援を、発症を未然に防ぐ施策として、また、磐田市の子どもたちが心豊かに育っていく子育て支援策として、このBPプログラムを活用した事業展開ができるよう努めていきたいと思っております。

